

最初に 家庭の備えから

自助

「防災協働社会」といっても
実感のないのが現状です。
まずは一人ひとりのことから。
大地震に備え、個人でできる準備について
まとめてみました。



いつ起こってもおかしくない大地震

日本列島の太平洋側では、プレートの潜り込みによる地震がくり返し起こっています。過去の記録によると、静岡から四国にかけての沖合では、100年から150年周期で、ほぼ同じ規模の大地震がくり返し起こっていることがわかりました。

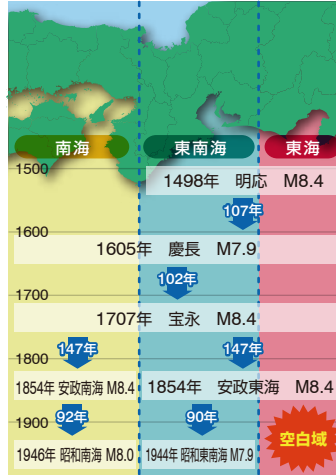
ところが、東海地震の震源となる駿河湾から御前崎沖では、1854年の安政東海地震の後、約150年にわたって大地震がないのです。このため地震のエネルギーが蓄積され、プレートの歪みが限界に達しているといわれています。

南海トラフで地震が発生した場合、建物の全壊棟数は約94,000棟、死者数は約6,400人と予想されています。(過去地震最大モデルより)

※本県被害予測調査結果については、愛知県防災局のホームページ内 (<http://www.pref.aichi.jp/bousai/2014higaiyosoku/2014higaiyosoku.htm>) でご覧いただけます。また、震度分布や液化化危険度分布、浸水想定域などの各種ハザードデータについては、愛知県の防災学習システム (<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/>) でもご覧いただけます。

- 過去地震最大モデル
南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模の大きいもの(宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震)を重ね合わせたモデルです。
- 理論上最大想定モデル
南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定。千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものです。

地震が起きた地域と年代



主な被害想定結果

想定地震の区分	過去地震最大モデル	理論上最大想定モデル
<全壊棟数>	約94,000棟	約382,000棟
うち揺れによる全壊	約47,000棟	約242,000棟
うち浸水・津波による全壊	約8,400棟	約22,000棟
うち液化化による全壊	約16,000棟	約16,000棟
<人的被害>	約6,400人	約29,000人
うち建物倒壊等による死者	約2,400人	約14,000人
うち浸水・津波による死者	約3,900人	約13,000人

帰宅困難者数……約858,000人～930,000人(過去地震最大モデル)
避難所生活者数(1日後)……約377,000人(過去地震最大モデル)

「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果(平成26年5月30日公表)」による

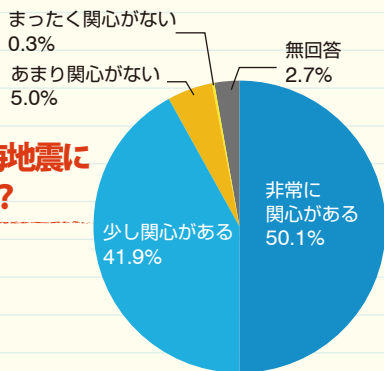
高い関心、甘い備え 県民意識調査結果より

愛知県では、県民のみなさんの防災意識や防災対策の実態を把握し、今後の地震防災対策の基礎資料を得るために、定期的に「防災(地震)に関する意識調査」を実施しています。

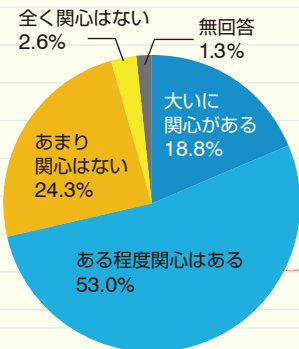
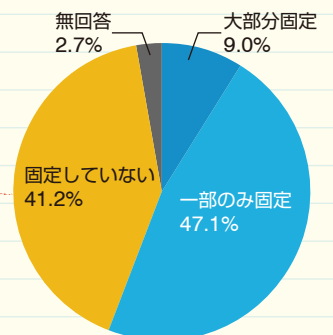
平成26年1月の調査結果によると、東海・東南海・南海地震に関心があると答えた人は92%、住まいの地域で過去に起こった地震災害について関心があると答えた人は72%と、地震に高い関心を持っていることがわかりました。

しかし、家具を固定していない人は全体の4割以上を占めています。理由は、手間がかかる、方法がわからないから、などでした。また、食料についても、最低限必要といわれる3日分以上の備蓄をしている人は約3割に留まっています。意識は高いものの、実際の行動にはまだまだ結びついていない状況となっています。

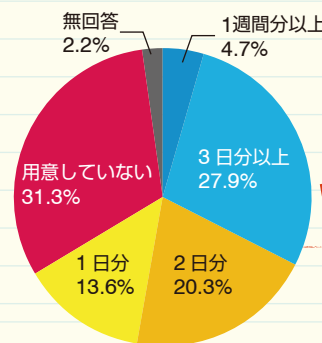
Q 東海・東南海・南海地震に関心がありますか?



Q 家具や家電の固定をどの程度していますか?



Q あなたのお住まいの地域で過去に起こった地震被害について、どの程度関心がありますか?



Q 食料を何日分備蓄していますか?

平成25年度「防災(地震)に関する意識調査」